

はじまりました！

西本 玲子  
(神戸YWCA 総幹事)

HAT 神戸をご存知ですか。

神戸YWCAは、2023年4月から、市営 HAT 神戸・灘の浜住宅 8 番館南集会所で、活動をスタートしています。

この地区は、かつて神戸製鋼所や川崎製鉄の大工場がある臨海部の工業地でしたが、1989年ごろには生産拠点の移転等による大規模工場の遊休化が進み、新たな土地利用計画が進んでいた矢先の1995年、阪神・淡路大震災が発生。震災によって甚大な被害を受けた市街地の復興、特に緊急かつ大量の恒久住宅の供給が重要な課題となり、神戸市復興計画におけるシンボルプロジェクトのひとつとして、「HAT (Happy Active Town) 神戸」が街開きしました。<sup>(注1)</sup>

神戸YWCAは、震災直後に救援センターを立ちあげ、避難所から仮設、仮設から復興住宅へと移る被災者を支援した経緯があります。その過程で「居住福祉」という考え方に出会い、住宅の課題と福祉は切っても切れないという気づきから、様々な地域福祉事業をおこなってきました。2019年には兵庫県の居住支援法人として「すまいの相談窓口」をスタートしました。2022年11月、「HAT 神戸・灘の浜」の市営住宅において、入居者の少子高齢化等の課題に対応し、地域コミュニティの活性化を図ることを目的とした神戸市のモデル事業を知り、私たちのこれまでの経験やネットワークが生かされるのではないかと考え応募し、事業者に選定されました。

「HAT 神戸・灘の浜」は甲子園球場約1個強の広さに、市営・県営・UR賃貸の集合住宅と、特別養護老人ホーム、保育園が建ち、地区から出て足を伸ばせばショッピングモール、小・中学校、県立美術館、人と防災未来センター、JICAまで揃っています。

市営住宅では、以前は餅つき大会や夏祭りが開催され、住民が亡くなった時には同集会所を用いて皆で送り出したそうです。しかし20数年が経ち、入居者の入れ替わりはあるものの、現在の市営住宅の高齢化率は55.6%、うち80歳以上は22.7%となっています。これは、まさに今の日本社会全体が直面している課題でもあるでしょう。

今後、私たちはここで、貸室、バザー、地域コミュニティ活性化、の3つの事業をおこないます。あくまで外部者である神戸YWCAだからこそ、地域内外の人たちが出会う場をつくり、地域のみなさんがいろいろな形で参画できるような仕組みを生み出していけたらと思っています。

4月22日、住民や関係者のみなさんと共に開所式を持ちました。その時に投票していただいた選んだ集会所の愛称は、「なだのはま8 (エイト)」。まだまだスタートラインに立たずすぎませんが、HAT 神戸・灘の浜のみなさんの声に耳を傾け、その必要に少しでも応えることのできる「なだのはま8」であればと願います。



(1) 人と防災未来センター『働く場』が『復興の地』へ～振り返る HAT 神戸  
https://www.dri.ne.jp/information/19915/  
ウィキペディア日本語版「臨浜海岸通」https://w.wiki/6rHK

なだのはま 8  
バザー

リサイクル衣料・雑貨・食器などの販売や、お茶・お菓子もあります。不定期開催です。5月28日(日)の第1回バザーは好評のうちに70人が参加し、買いものやカフェを楽しんでいただきました。ぜひ買いものがてら、なだのはま8に遊びにいらしてください。手伝ってくださるボランティアも大募集中です！(詳しくは4ページに記載)

# 「子ども日本語トータルサポートプログラム」

「勉強に役立つ日本語クラス」は、7月下旬から8月にかけて行われます。酷暑の中、毎日神戸YWCAへ通い、日本語のシャワーを浴びる2週間、中には、来日したことに納得していない場合もあるでしょう。子どもたちは不安と不満とストレスでいっぱいには違いありません。一方、教える私たちもみんなの表情を見て「大丈夫かな？わかったかな？練習が足りたかな？」と不安でいっぱいになります。それでも、子どもを教えるのは大人とは違ったおもしろさがあります。ある日突然、子どもの頭の中の言語の回路がつながって、日本語がわかるようになると言われていました。そこから、習得のスピードがぐんぐんと伸びていきます。

昨年夏、来日したばかりでこのクラスに参加したAさんも、定着が遅く心配しましたが、2学期になり、学校生活を送っていくうちに、回路がつながったようです。Aさんの日本語力はものすごいスピードで伸びました。学校では元気に過ごし、作文を暗唱したり、アルバイト先の朝礼でも日本語で話したりしているそうです。こんな報告を聞くたびに、子どものエネルギーの大きさを感じます。



これまで、大勢の子どもたちが日本語を学び、巣立っていきました。その子どもたちが社会人、学生になり、神戸YWCAに戻り活躍しています。「先輩の話を聞こう」というプログラムで後輩に自分の経験を話し、エールを送っています。また、後輩のために、このプログラムのチラシを日本語から母語に翻訳してくれました。とても嬉しいことです。

これからもこのプログラムを通して子どもたちの日本語支援が続けられるよう、ご支援をお願いします。

(神戸YWCA 学院日本語コース  
副主任講師・小川 佐由理)

神戸YWCAでは2008年以降、日本での定住を目指す外国にルーツを持つ子どもたちを対象とした支援「子ども日本語トータルサポート」を続けてきました。具体的には、来日したばかりの子どもたちを対象とした「勉強に役立つ日本語クラス」で基礎的な日本語力を伸ばすための支援をおこない、その後の「はっぴー・すくーる」で、普段の学校生活や進学・就職などをトータルにサポートします。

日本に在住する外国人の状況の変化に合わせて、プログラム内容をその都度見直してきました。「勉強に役立つ日本語クラス」では、神戸市内の夜間中学校に

## まごの手ヘルパー徒然記

1年前、この連載で登場した「ノボリフジの君」のMさんが、4月にレスパイト入院\*先で亡くなった。24時間ベッドの上で、一人では動けずに過ごすという、苦行のような生活を約4年続けてこられたMさん。日々訪問する中で、悩み、苦しみ、自暴自棄になり、酒に逃げ、エロや博打を求めと、生々しい人間の気持ちの揺れを垣間見た。病气や障がい半ばあきらめたように受け入れ、それに流されたようだったが、ほぼ最期まで4畳一間の自分



の家で暮らすことを希望して貰われたMさん。彼の家は片づけられたが、今でも行ったら「どうもー」とベッドから挨拶してくれるMさんがいるように思えてならない。

昨年12月には、Nさんが亡くなった。食道がんのステージ4、通いの抗がん剤治療をしつつ、住み慣れた自宅で自由に、最期まで過ごした

い、と退院して家で暮らしたNさん。編集者として働き、彼自身も休みやすみ、同人誌に出す原稿を執筆していた。訪問中、つげ義春風のシュールな話が載った自社の出版物を、私に見せてくれた。部屋には年代物のフィギュアやポスターが飾られていた。猫が好きで、通い猫の世話もしていた。体調不良で入院となり、そのまま病院で息を引き取られた。たった1カ月という短い訪問だったが、穏やかな口調で話すNさんの姿が、今も心に残っている。

(まごの手職員・藤井かえ子)

\*保養のための一時的な入院



# エルサルバドル伝書鳩

Vol. 1



2023年4月、JICA 海外協力隊員としてエルサルバドルに到着し、現在は、スチット市で現地研修を受けています。スチットは観光業が盛んで、景観保持に関する決まりがあり、石でできた道やカラフルな住居など、味わい深い景色が残されています。また、エルサルバドルの人たちはとても優しく、つたないスペイン語で話す私にいつも笑顔で対応してくれ、子どもたちも毎日道路で遊んでくれています。



られています。スチットを歩いていると、「EN ESTA CASA QUEREMOS UNA VIDA LIBRE DE VIOLENCIA HACIA LAS MUJERES (この家では女性に対する暴力のない生活を望む)」と壁に刻まれているのをよく見かけます。女性が抱える様々な問題に目を向けて、活動をしていきたいと思っています。(福田 百)



厳しい暑さと人の温かさに触れる毎日ですが、女性のエンパワメントの道のりの険しさも感じさせ

入学する外国人の増加にともない、2年前に対象年齢を「18歳まで」から「日本の学校に通学(予定)の生徒・児童」と変更しました。昨年度は、夜間中学校の生徒3人、19歳の高校生1人が参加し、これまで対象とならなかった人たちにも支援を行うことができました。

「子ども日本語トータルサポート」は、子どもたちが経済的理由で学びの機会を失うことのないように、授業料・参加費を無料にし、助成金と寄付「子ども日本語トータルサポート募金」で運営をしています(ただし「勉強に役立つ日本語」は資料代2,000円が必要)。1人でも多くの子どもが学びを継続できるように、どうぞ応援してください。

## 子ども日本語トータルサポート募金

ご寄付はこちらへ

目標額：100万円  
 募集期間：2023年6月1日～9月30日  
 郵便振替 01100-0-10298  
 公益財団法人神戸YWCA  
 \*振替用紙の通信欄に「子ども日本語」とご明記ください。

神戸YWCAへのご寄付は税額控除の対象になります。詳しくは事務局へお問い合わせください。

## キックオフ・ミーティング(運営委員会)

6月10日(土)、神戸YWCAで活動する委員会・グループのメンバー



## 会員活動報告

代表が一堂に会した。

前半は、それぞれの活動でモットーとすること、今年のアピールをフリップ形式で発表してもらった。

発表が白熱して、後半の「会費について考える」時間はかなり割愛せざるを得なかったが、ひさびさの対面プログラムに、互いに顔を合わせて知り合う時となった。参加者14人。

## 神戸YWCA イースター(キリスト教基盤委員会)

イエス・キリストの復活を祝う今年のイースターは、4月15日(土)、神戸YWCA会館で、3年ぶりに対面で行われた。

わかりやすい「イースターのお話」

をYouTubeで見た後、「心も身体も復活して喜ぼう!」とヨガとフラダンスで楽しいひと時を過ごした。参加者13人。

## おしゃべり会(平和活動グループ)

平和活動グループ「おしゃべり会」が、5月21日(日)、神戸学生青年センターで開催された。

「武力ではなく、対話による平和構築～アジアの平和を考えよう～ASEAN(東南アジア諸国連合)とは?」と題して、神戸演劇鑑賞会の田中清史さんが話された。参加者の活発な意見交換があって、次回の会が期待される。参加者10人。



私の住んでいる町で、全国最年少の市長が誕生した。今までもあまり関心はなかった私もワクワクした瞬間だった。無所属で経験もない地元出身者でもない彼にどうしてみんなの期待が集中したのだろうか。

彼の配布するビラは、他の候補者とは違った。とにかく見やすい。紙の厚みといい、こだわりの詰まっている。投函された36ページにわたる政策提案集の冊子も具体的なビジョンが明確に書かれていた。これは共感できる。駅前街頭演説している姿を幾度か見た。初めは、スタツフ候補者かも知らなかった。提案集にもある対話を大切にという言葉どおり、老若男女を問わず、駆け寄って話しかけている姿も見かけた。小学生の子どもにもその熱意は伝わる。次第に、彼の街頭演説には人だかりができた。市民の気持ちに期待が変わっていった。私たちは真つ新たな26歳に期待をかけたのだ。すぐに評価・結果を求めず、長いスパンで応援する責任があると思った。

(小野木愛)

## 神戸YWCAへの おさそい

\*予定は変更されることがありますので、ホームページ・SNS等で最新情報をご確認ください。

### ●わいわいデイルーム 会館

(神戸市地域拠点型一般介護予防事業)  
毎週火曜日、10時～15時  
対象：神戸市内にお住まいの65歳以上の方で、ご自分で通って来られる方。  
\*お近くの「あんしんすてやかセンター」でお申し込みください。

### ●カフェもぐもぐ その他

若年性認知症の人と仲間たちのつどい  
7月1日(土)、8月5日(土)、9月2日(土)、  
10月7日(土)、11月4日(土)  
10時30分～15時  
場所 日本基督教団神戸聖愛教会  
参加費 800円(食事付)  
要予約、詳細はお問い合わせください。

### ●木曜カフェ 会館

第2・4木曜日、13時30分～15時30分  
レコードで懐かしい音楽を聴きながら  
ほっこりしませんか？(1ドリンク100円～)

### ●オープン・ミーティング 会館

10月14日(土)13時30分～15時  
10月から「世界・社会」「環境・暮らし」「ユース・エンパワメント」の3つの委員会の中で、グループが共に活動することになります。その初めての顔合わせとしてミーティングを開催します！  
2024年度の委員会の活動内容について意見を出し合い、プロジェクトを作っていきます。会員・会友、グループで活動するメンバーなら誰でも参加できます。ご参加ください。

夏季休館日 8月10日(木)～16日(水)

\*まごの手・保育園を除く



## なだのはま8 バザー

### 寄贈品募集中!

- ・衣類(洗濯済みのもの。シニア、大きなサイズのもの、男性もの大歓迎!)
- ・小物、食器、アクセサリ(靴、カバン、ぬいぐるみ、家電は不可)

お問い合わせ：担当・西本

当職員、会計士。監査の結果、2022年度事業報告および計算書類、財産目録等は全て適正に示されていることを確認。

5月20日(土)、第11回理事会。出席理事7人、監事2人。監査報告の後、2022年度事業報告および決算報告、2023年度財政計画を協議、承認。

6月17日(土)、2023年度第1回理事会。出席理事7人、監査2人。決議により、代表理事に平山芳子、常務理事に西本玲子、業務執行理事に寺内真子が選任された。

(総幹事・西本玲子)

### ■新会員

速水 靖子 (敬称略)

### ■賛助員

井上 早苗 小川 佐由理  
篠原 悦子 平山嘉廣  
三浦 哲朗 (敬称略)

### ■編集後記

「なだのはま8」第1回バザーがスタート。笑顔でいっぱい。カフェも盛況でお茶とおしゃべりでほっこりされるひと時。YWCAの使命が見えたような1日でした。(S・I)



事】●キックオフ・ミーティング内容決定●「セーフスペース」の取り組み (斎藤 明子)

### ■評議員会報告

6月17日(土)、第13回定時評議員会。出席評議員8人、出席役員3人。2022年度事業報告と決算報告を承認、2023年度事業計画・予算が報告された。また、理事に大工原則子、寺内真子、西本玲子、野村春美、平山芳子、三浦啓子、宮田泰子、監事に川関敏恵、川辺比呂子が選任された。

### ■理事会報告

3月27日(土)、第10回理事会。出席理事7人、監事2人。2023年度資金調達および設備投資の見込み、規程関連の変更等を承認。

5月20日(土)、2022年度会計監査を実施。出席監事2人、陪席は理事長、会計担

木直子がパートヘルパーに着任。利用の申込は増加しているが、ヘルパー不足により受けられないことも多い。ヘルパー(正職員・パート)を募集している。

「生活支援わいわい」は5月13日(土)に交流研修会を行った。参加者9人。事務報告等のあと、神戸の張替の基礎を教わった。

「居住支援」は、2022年度の相談件数33件、うち入居実績は11件。高齢者と障害者からの相談が多く、合わせて26件、79%を占める。

(所長・寺内 真子)

### ■運営委員会報告

4月8日、第1回運営委員会、出席6人【報告】●日本YWCAより中央委員・2023年度研修計画●HAT神戸・灘の浜プロジェクト経過【議事】●キックオフ・ミーティング●各委員会メンバー募集●「セーフスペース」の取り組み

5月13日、第2回運営委員会、出席5人【報告】●日本YWCA関連●HAT神戸・灘の浜プロジェクト経過●各委員会メンバー募集結果【議

## ■学院だより

文化教養コースで人気の発声・歌唱レッスンでは、歌う前の基本的な身体の使い方から学ぶ。譜面台の前に立ち、窓に映った自分の姿を真っ直ぐ見つめる(目力も重要)。胸を張って、腕は自然に下ろす。うまく声(息)が出ないと、岩崎講師は顔、首まわり、背中など、ほぐすツボを的確にアドバイスして下さる。この発声練習をすると、驚くほど声が出やすく、歌うのが楽しくなる。(秋月 啓子)

## ■保育園だより

初めて出会う場所や人に緊張していた子どもたちも、5月には安心して保育園での生活ができるようになりました。

子どもたちが安心できる場所は、保護者の方にとっても同じだと信じて、保育士たちは今日も笑顔で「いってらっしゃい」「おかえりなさい」と声をかけています。(梅川 玲子)

## ■まごの手だより

「居宅介護支援」は、7月末に管理者の吉田好江が退職、6月から福嶋佳子が管理者に着任。「訪問介護」は、5月から青

## ホームヘルパー募集

誰もが地域の中で自分らしい暮らしをおくるために、担い手となって働きませんか。

### ◆ホームヘルパー

常勤 月給198,100円～  
パート 時給1,100～1,200円  
登録型 時給1,000～1,400円

\*担当・寺内までお問い合わせください。

◆生活支援訪問  
サービス従業者 900円/回

神戸YWCA  
まごの手

☎078-231-3156

## 『AFTER ME TOO』上映会

神戸YWCA ×  
元町映画館  
共催企画

7.1(土) ▶ 7.7(金) 連日19:40より上映

【料金(当日のみ)】学生・障害者1,000円、その他一律1,700円

緊急花隈駅	JR-阪神元町駅
JR-阪神「元町」駅徒歩約5分	JR-阪神「花隈」駅徒歩約3分
078-366-2636	motoei.com
元町映画館	元町映画館

ゲストトーク  
※いずれも上映後に劇場内で開催



7/1(土) アルテイシアさん  
神戸生まれの作家『ヘルジャパンを女が自由に楽しく生き延びる方法』自分も傷つけないけど、他人も傷つけないあなたへ『フェミニズムに出会って長生きしたくなった』など著書多数。

7/4(火) 神戸松蔭女子学院大学 英語学科  
韓国文化研究プロジェクトチーム  
映画の字幕で割愛されたテキストやそれぞれの事件、社会的問題についての解説をはじめ、現代韓国社会と女性について学生たちによる研究発表を行います。

7/7(金) 岸野令子さん × 江口由美さん  
映画パブリシスト・岸野令子さんと、「元町映画館ものがたり」の責任編集も務めた映画ライター・江口由美さんによるフェミニズムトーク。  
★ゲストトーク以外の日は、参加者どうして感想と意見をシェアする「感想シェア会」を開催します